

研究報告書（分担者）

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者 檜尾明憲 東京大学 医学部付属病院 講師

研究要旨 昨年度検索した文献をもとに1. 「聴覚活用療育法が音声言語発達に有効でない例の判別は可能か」の臨床的クエッションのアンサーとして推奨：聴覚活用療育法が有効でない難聴児の判別は療育開始前に可能であるというエビデンスはないとの結論を出した。2. 「髄膜炎の難聴例の療育での注意点」に関する解説を作成した。東京大学耳鼻咽喉科において人工内耳を施行し、長期に経過観察を行っている症例の中から好事例を収集した。

A. 研究目的

1. CQⅢ-5「聴覚活用療育法が音声言語発達に有効でない例の判別は可能か」に対するアンサーの作成。
2. 解説Ⅲ-6「髄膜炎による難聴例の療育での注意点」作成
3. 東京大学耳鼻咽喉科人工内耳症例の好事例集の収集

B. 研究方法

1. 昨年度検索を行い渉猟しえた58の文献のアブストラクトテーブルをもとにアンサー案を作成し、ガイドライン作成委員とともに協議修正を行い、最終版を作成した。
2. 昨年度検索を行い渉猟しえた18の文献のアブストラクトテーブルをもとに、解説案を作成した。その後、ガイドラインとともに協議修正を行い、最終版を作成した。
3. 東大病院において人工内耳を施行した小児例について経過を、カルテをもとに後方視的に検討し、多職種連携が行われ良好な経過をたどっている症例を3例抽出し検討した。さら2例追加で検討を行った。

C. 研究結果

1. 論文精読の結果、聴覚活用療育を行うにあたり、補聴器装用により音声言語獲得呑み込みが不十分である場合人工内耳を活用することとなるが、人工内耳の成績を左右する因子として、手術時期、重複障害、聴器形態異常など、併存

疾患、家庭環境などが挙げられたが、いずれの因子も、聴覚活用法が無効であるというエビデンスはなかった。以上より、聴覚活用療育法が有効でない難聴児の判別は療育開始前に可能であるというエビデンスはないという結論となった。

2. 髄膜炎に伴う人工内耳術後の注意点として、蝸牛骨化や中枢神経障害の問題が術後の予後を左右する因子として注意すべき問題であるとともに背景に内耳奇形が存在する可能性もあり、術後の経過観察において髄膜炎の再発など注意が必要であることが分かった。

3. 5例の症例報告を行った。留学を経て、名門大学入学した者、中学受験で合格したもののほか、重度発達障害を持ちながら人工内耳を行った結果、音声言語でのコミュニケーションを実現させたものなどの具体例を提供した。

E. 結論

聴覚活用療育法が音声言語発達に有効でない例の判別は可能ではない。髄膜炎後人工内耳では蝸牛骨化・中枢神経障害・内耳奇形の有無を念頭において療育を行なう必要がある。東大病院における好事例5例を報告した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Kashio A, Takahashi H, Nishizaki K, Hara A, Yamasoba T, Moriyama H. Cochlear implants in Japan: Results of cochlear implant reporting system over more than 30 years. *Auris Nasus Larynx*, 2020 Ahead of print

甲田 研人, 樫尾 明憲【耳鼻咽喉科診療Q&A】耳科領域 人工中耳・人工内耳装用者のMRI撮影はどのようにしたらいいのでしょうか?(Q&A/特集). *JOHNS* 36:1113-1115,2020

小山 一, 樫尾 明憲【小児のみみ・はな・のど救急対応-治療と投薬-】小児の急性感音難聴(解説/特集) *ENTONI* 24:15-22, 2020

2. 学会発表

第121回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

樫尾明憲

人工聴覚器医療の進歩 本邦における人工内耳適応の変化と進歩 (シンポジウム)

第30回 日本耳科学会総会・学術講演会

樫尾明憲

GJB2遺伝子異常をもつ両側人工内耳症例のECAPの測定と左右差の検討

第30回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会

樫尾明憲

人工聴覚器・手術手技の進歩 (シンポジウム)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録
該当なし

3. その他
該当なし